

## ランピースキン病 国内状況 第3報

福岡県、熊本県における本病の発生について、現在の状況をお知らせします。

### 最新情報

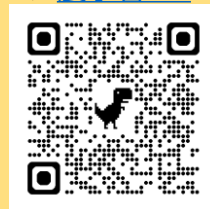
- ・発生状況:20事例(福岡県:18事例、熊本県:2事例)
- ・ワクチン接種状況:福岡県で11月21日から発生農場周辺20km範囲で開始  
(現時点では熊本県で接種はしない方針)

### 症状

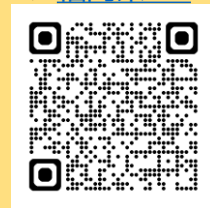


写真引用:福岡県HP

↓ 農水省HP



↓ 福岡県HP



**皮膚の結節、発熱、泌乳量の低下 など**

上記のような症状が見られたら

- ① 症状のある牛を隔離
- ② 同居牛を含めた牛、資材等の移動の自粛
- ③ すぐに診療獣医師または家畜保健衛生所へ連絡

### ワクチン接種開始に伴う対応

令和6年12月10日付け  
農林水産省消費・安全局動物衛生課長及び畜産局食肉鶏卵課長

アメリカ合衆国との協議を踏まえ、現時点で以下が求められています。

- ・ワクチン接種県(現時点:福岡県のみ)に由来する牛は、令和6年12月12日以降  
米国向け輸出牛肉取扱施設に出荷・搬入しない
- ・ワクチン非接種県にある施設のみ輸出可能
- ・輸送時にワクチン接種牛と非接種牛を同乗させない

※ 米国向け輸出牛肉取扱施設:全国16施設  
(岐阜県内では飛騨食肉センター〈飛騨ミート農業協同組合連合会〉が該当)

# 家畜衛生情報

## 対策

### (1)吸血昆虫対策

発生農場では、**サシバエが多いほど発症頭数が多い傾向**にあるようです。

#### 〈成虫対策〉

- ・ 薬剤散布：**ピレスロイド系薬剤**を、ハエの休息場所となる壁や柱等に定期的に散布
- ・ 牛舎周辺の草刈り・清掃：休息場所を減らす
- ・ 防虫ネット：目が**2mm以下**

サシバエ（成虫）



#### 〈卵～幼虫対策〉

- ・ 産卵場所の**糞尿や飼料残渣の清掃と堆肥化**：  
堆肥の発酵熱(50°C以上)により幼虫の致死率上昇
- ・ **IGR製剤（脱皮抑制剤）**等を定期的に散布：  
幼虫の発生しやすい畜舎の壁際など牛に踏まれない・**湿度の高い場所**への散布

堆肥の中の蛹



引用：<https://www.chikusan-club21.jp>

### (2)消毒

ランピースキン病のウイルスは、以下の特徴があります。

- ・ 環境中においても長期間生存する可能性
- ・ 乾燥した痂皮で35日間、日光が当たらない環境中で数か月間生存する報告例あり
- ・ **畜産現場で用いられる一般的な多くの消毒剤に感受性あり**

➡ 有効な消毒薬の種類：**逆性せっけん、塩素系、ヨード系、アルコール、消石灰等**

消毒薬を効果的に使用し、農場内へのウイルスの持ち込みを防ぎましょう

#### 【消毒薬効果の影響要因】

- ① **温度**：一般的に低温下で効果減弱↓
- ② **濃度**：濃度に比例して殺菌力増強↑
- ③ **有機物質**：糞尿等の有機物存在下において効果減弱↓
- ④ **pH**：逆性せっけんはアルカリ性で、塩素系やヨウ素系などは酸性下で効果が高くなる↑

飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468

TEL:0577-33-1111(内線403) FAX:0577-32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

※閉庁時には案内メッセージに従って対応をお願いします。

飛騨家畜保健衛生所  
家畜衛生情報は  
こちら⇒

